

令和元年度 事業計画書

令和元年 5 月

大阪国際学園

1 大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部

(1) 「募集活動の強化」

2021 年度入試以降の大学入学選抜については、新たなルールが設けられることとなり、「学力の3要素」（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価するものへと改善する必要がある。より詳細な実施内容についての検討を行い、2021 年度入試に備える。

また、今後ますます厳しさが予想される短期大学部の学生募集対策を、各学科や関係部門と連携し、安定して入学定員が獲得できる募集プランを構築する。

引き続き、費用対効果を重視し、「奨学費」「募集広報費」等のさらなる見直しを行うこととする。

(2) 「教学改革の推進」

これまで「FDセンター」主導により進めてきた「授業改善」にかかる取組み（授業アンケートの実施、FD・SD 研修会等）を継続するとともに、組織的な体制として教学 IR を導入したことによる 3 ポリシーの検証に至る方策について、引き続き検討を行う。2018 年度より認証評価が第 3 クールに入り、基準に沿った教学実施・検証体制となっているかについても留意しながら、「質保証」の向上を図っていく。

また、「教養教育の充実・強化」に向け、2019 年度からスタートする「基幹教育機構」の全学的な企図・運営により「学生の主体的な学び」の強化を目指す。

(3) 「国際交流活動の推進」

海外研修プログラムは、2018 年度に実施された 10 研修に加えて新たにハワイ食文化研修を実施する。また短期大学部生や学部 1、2 年次生の参加を積極的に奨励するためにも、国際交流活動報告などのパンフレットを活用し、年間 300 名の学生を海外に派遣することを目標とする。

学内においては、留学生の割合を留学生別科生も含めて 10%になるよう、募集活動に取り組むとともに、留学生、一般学生に交流会や International Island などを実施し、学生の日本理解、異文化理解、相互理解を深める機会とする。

海外協定校は 2021 年までに 110 校まで拡大するよう開拓を継続する。（2019 年 1 月現在 104 校）

(4) 「課外教育活動の推進」

クラブ活動の更なる充実を図る為、顧問が積極的にクラブを指導できるクラブ活動の体制見直しを行う。また、現在シンボリックスポーツ7クラブの強化を推進する中で選択と集中を行い、強化するスポーツクラブの再検討を行う。文化系クラブについては活発な活動推進ができるサポートづくりを検討する。

グローバル化としては、視野を拡大する目的でのクラブによる海外遠征推奨、また国際交流課と連携を強化し、シンガポール遠征等の推奨、サポートを行う。

人間力の向上としてのエンカレッジ活動については、近隣小学校に対するボランティア活動を中心として推進、またガンバ大阪エンジョイパークの運営を更に価値あるものとしていく。

なお UNIVAS (一般社団法人大学スポーツ協会) の設立に伴い、本学も加盟するための、円滑な事務手続き等を行う。

(5) 「地域交流活動の推進」

2019年度は、包括連携協定先(近隣三市を中心)との連携及び、独自の「公開講座」「OIU・OIC キッズキャンパス」「AKV(関西空港ボランティア)」「地域防災」の4活動を軸に学園・学部・学生にとって価値ある取り組みにしていく。

重点取り組みとしては、

①地域課題である子育て支援や防災活動に行政部門や地域コミュニティと協働して取り組むとともに「OIU・OIC キッズキャンパス」の充実、「公開講座」「防災フェスタ・啓蒙活動」の継続実施で地域への貢献と行政の期待に応えていく。

②産業界とは、守口門真商工会議所との連携強化、新たな企業との関係構築を目指し、学部・学生の学習機会拡大や学内各部門と企業をつなぐ活動に取り組む。

③AKV(関空ボランティア)活動を中心とするボランティアバンク活動は、貴重な体験機会、自ら考え行動する場として社会からも認められる存在となってきた。参加学生の一層の活躍機会の創出と社会人基礎力の向上に取り組む。

(6) 「キャリア教育と就職支援の強化」

キャリア教育と就職指導の一体化を高めることを目的として新設する「キャリアサポートセンター」のスムーズな体制構築を図る。キャリアサポートセンターでは若年層からのキャリア形成支援、就職率の向上、並びに学生の納得度の高い進路決定支援を進める。新キャリア科目は本年初めて完成年度を迎えるが、当該学部では授業展開と就職活動生へのきめ細かい個別対応を具現化させる。さらにはゼミやクラブ毎、また留学生などの中小グループへの多様な角度からの指導も継続する。

企業対応については、OB・OGリクレーターの活用やインターンシップの実施等、企業と在学生との接点を増やし、本学シンプ企業を引き続き増やしていく。また堅調な採用動向を踏まえ、未開拓の中堅優良企業等との関係作りに注力する。

2 大阪国際滝井高等学校

(1) 「募集活動の強化」

すべての募集イベントにおいて、「凛とした美しさ」を保ちながら、中学生や保護者に対して本校の特色が十分に伝わるよう、明るく楽しい雰囲気を中心にアピールした内容にリニューアルする。また、保護者の便宜を図るため、これまでの個別相談に加え、夜間にも相談会を実施する。

また公立校との競合に対抗するため、特待生制度や学納金の納付方法などの見直しを検討し、保護者の経済的な負担を軽減する。

さらにクラブ活動の活性化とともに、中学生のクラブ体験の機会を充実させることによって、本校のクラブ活動の魅力を発信し、志願者の増加を図る。

(2) 「探究型授業の推進」

2022年度より施行される新学習指導要領のねらいである「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うため、本年度より移行措置として実施される「総合的な探究の時間」を核として、高校卒業までの3カ年の学習指導計画を策定し、すべての教科において探究型の授業が実施できるよう授業研究を進める。その際、他校種、大学、企業、地域、及び社会教育機関等と連携や交流を図りながら、授業内容や指導方法について工夫する。また、ICT環境を引き続き整備するとともに、すべての教員が活用できるよう計画的な研修を行う。

(3) 「働き方改革の推進」

労働基準法の改正に伴い、変形労働時間制や各教職員の勤務実態に応じた時差勤務のほか、毎月最終金曜日に全員18時退勤を原則とする「リフレッシュDAY」の継続により時間外勤務の縮減をめざす。また、新たに策定された運動部の活動方針に基づき、教員の休養日を確保するとともに、年間15日程度、有給休暇取得を推奨する日として位置づけ、有給休暇の計画的取得を推進する。

(4) 「幼児教育における併設校・園との連携推進」

平成31年2月に締結された、短期大学部、認定こども園、滝井高校の三者による幼児保育関連の連携協定に基づき、短大とは、より一層専門的な学習や学生とコラボしたイベントの開催、こども園とは、幼児との触れあいや保育士との懇談会など、新たな行事を企画し、本校幼児保育進学コースの充実を図る。

(5) 「国際教育の推進」

本年度から、生徒全員に一度は海外を体験させるという趣旨のもと、新たに普通科全員のベトナム修学旅行、国際科全員のカナダ語学研修を実施する。カナダ語学研修は従来のホームステイと語学研修だけでなく、現地校の授業に参加し、現地高校生との交流を図るプログラムを含める。前年度からの継続事業である奨学金付き

のニュージーランド短期派遣留学・ベトナムボランティアツアー・オーストラリア語学研修も更に充実したものに発展させるべく取組みを強化する。また大和田高校のケンブリッジ研修、UCLA 研修にも本校から積極的に参加させるよう生徒の興味・関心を高めていく。本校の交流においては、カナダ、ニュージーランド、オーストラリアの提携校と信頼関係を築き、その学校から生徒を受け入れるための地盤を固める。また、併設大学や他大学の留学生との交流をさらに発展させ、生徒の英語学習への動機付けや異文化理解の推進を図る。

3 大阪国際大和田中学校・高等学校

(1) 「ICT 及びアクティブラーニング型教育の推進 (中学・高校)」

ICT を活用した教育を推進するため、設置されたプロジェクターを十分に活用し、授業の効率化を図る。そのため、デジタル教科書等を購入する。

また、新たに導入したノート型 PC(Chrome book) 70 台を調べ学習等に活用し、本校に相応しいアクティブラーニングの研究開発を行う。

(2) 「総合学習の充実 (中学)」

本年度も引き続き、華道、チェス、囲碁、書道、マジック、ダンス、PBL (Project-Based Learning)、美術、カメラを利用した学習に取り組み、本校独自の学習活動を展開し、思考力、判断力、表現力の育成を図る。

今後、ますます主体的に学ぶ力の育成が求められており、本校の特色ある授業として定着させる。

(3) 「国際交流の推進 (中学・高校)」

現在、オーストラリアのタスマニアに姉妹校があるが年々受入れ人数が減少している。従来の繋がりを大切にして相互交流を増やし、さらなる充実を図る。

昨年度は、新たな交流校としてシドニーの IGS(International Grammar School) を交流校として追加した。今後も姉妹校や交流校をさらに増やし、生徒や保護者の国際交流に対する要望に応えられる環境をつくっていく。

また、イギリスのケンブリッジ大学、アメリカの UCLA、ベトナム・オーストラリア語学研修を滝井高校と合同で実施し、グローバルマインドの育成に努める。

(4) 「ココロの学校の充実 (中学・高校)」

社会で活躍している人たちの、生き様に触れ、その方々のお話を聞くことにより、生徒の人間としての大いなる成長を期待して本事業を実施する。本年度も数名の講師を招く予定である。生徒の心を動かし、豊かな心を育成する上でも、建学の精神を醸成する上でも非常に有効である。

この取組みは他校に例を見ないものであり、本校の特色ある教育活動として、さらに定着させていきたい。

(5) 「生徒募集活動の積極展開（中学・高校）」

中学、高校の生徒募集は募集目標数確保を目指すため、募集担当職員をはじめ、教職員が一丸となって中学、高校の魅力を京阪沿線の方々だけでなく、大阪市内や東大阪、北摂地域等、本校へ通学可能な地域に伝えるべく、一層募集活動、PR活動を積極的に推進する。

(6) 「志をたかめる」(中学・高校)」

高等学校、中学校とも、できるだけ早期に生徒自身に自分の将来を考えさせる取組みが必要である。そのために、大学と連携し、大学訪問や大学教授、大学院生、あるいは研究者に最新の研究成果などについて講演して頂くなど、生徒に学びの刺激を与える取組みを行う。

結果として、生徒が希望する進学先への進学実績を伸ばしていくことをめざす。

(7) 「グローバル教育の充実（English day の実施）」(高校)

中学校、高等学校ともに、ますます英語教育の推進を図る必要がある。そのために、従前の英語教育を脱却し、英語を真にコミュニケーションツールとして身に付け、グローバルに活躍できる基礎力を育成する。

中学校ではグローバルビレッジの取組みをさらに充実させるとともに、英語によるスピーチコンテスト等のレベルアップに取り組む。高校においては一昨年から実施している英語でプレゼンテーションを行う授業を発展させるとともに、大等の留学生を招聘し一日中、英語漬けの取組みを行い、実際に英語を使ってコミュニケーションを図る機会を増やし、グローバルな視野の育成を図る。

4 幼保連携型認定こども園 大阪国際大和田幼稚園

(1) 「教育・保育の充実」

建学の精神や理念に沿って、認定こども園としての教育・保育方針「生きる力の基礎を育成」に向け、基礎となる力を培う教育を実現する。

平成30年度から全面実施された「こども園教育・保育要領」に基づく「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、幼児期において育てたい資質・能力の三本柱 ①知識及び技能の基礎、②思考力、判断力、表現力等の基礎 ③学び合う力、人間性等について重要項目として位置づけた取組みを行う。

また、園児が21世紀の国際社会で活躍するために必要となる英語力・読書力などの基礎づくり、パソコンなどのICT機器に苦手意識がうまれないよう、幼児期から親しみをもたせる取組みを行う。本年度は、新園舎での生活が3年目を迎えるが、教育・保育の内容や施設の使い方を工夫し、必要に応じて見直していく。

また安全を第一に行事及び様々な環境を点検し、充実した園舎を存分に活用した教育・保育が展開できるよう工夫していく。

(2) 「幼稚園教育と保育所機能の保育教諭同士の連携」

新園舎では、3歳児から5歳児と、0歳児から2歳児が別々の階で生活しているため、幼稚園教育の教諭と保育所機能の教諭とが密に連絡や情報交換を行い、全ての園児と教職員が安全・安心、充実した園生活を送ることができるよう取り組む。

また、3歳児から5歳児の子どもが0歳児から2歳児までの子どもとかかわり、異年齢間での活動を展開しながら、互いに認め合うことのできる人間関係を構築することができるように取り組んでいく。

(3) 「情報の発信と園児募集」

最新の設備や機能を備えた新園舎のメリットだけでなく、学園グループのこども園としてのメリット（大学施設の利用、大学・短大・高校・中学の教員・学生との交流・支援など）をホームページ等を通じて積極的にPRする。また、地域との交流や連携を深め、地域の子育てステーションとしての存在を高めていく。

さらに、幼稚園としての長い歴史で培った質の高い幼児教育・幼児保育内容の実績を幅広く情報発信していくとともに、0～2歳児と3～5歳児の交流、2歳児から幼稚園教育へのなだらかな移行等、本園ならではの特徴ある活動を情報発信し、近隣地域の「幼保連携型認定こども園」のトップランナーとして、その知名度の向上を図り、入園児獲得につなげていく。

(4) 「短期大学部 幼児保育学科等の学園グループとの連携」

平成31年2月に短大と滝井高校と本園の三者で締結した「保育・教育・研究連携協定」に基づき、更に交流を深め効果的な教育連携に取り組む。また、大学・短大、中学・高校との交流を深め、活動内容の幅を広げていく。

こども園において保育者の専門性の向上が不可欠であり、待機児童と関連して保育者不足が問題となっている。保育現場や大学教育にとって保育者養成の重要性が増している中、幼児保育学科との連携を強化するとともに、短大とこども園との協働による保育者養成について、短大との交流を充実させていく。

また、保育教諭が大学教員から直接指導を受けることで、保育教諭の資質向上にもつなげていく。

以上